

平成29年度第1回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

平成29年度第1回の青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日時

平成30年2月14日（水） 午後1時30分～3時45分

2 場所

青森県立郷土館 小ホール

3 案件

- (1) 議長及び副議長の選任
- (2) 平成29年度施設設備改修工事実施状況
- (3) 平成29年度事業実施状況及び利用状況
- (4) 平成30年度事業実施計画（案）
- (5) 青森県立郷土館の博物館評価

4 委員からの主な意見

- 今後、計画的な大規模改修を行うに当たっては、施設全体の利用というものを根本的に考えるべきである。
- 大規模改修の基本計画を検討する際に、広く県民のアイデアを拾い上げて加味してほしい。
- 三内丸山遺跡の資料館の計画との関係から、郷土館の魅力づくりをどうするのかというスタンスが求められるのではないかと。
- カフェ、ミュージアムショップを是非作っていただきたい。
- 出前授業は、持ってくる資料の種類、質、そしてその解説がすばらしく、子どもたちは本物に触れることで夢中になる。これからも続けていていただきたい。
- 博物館資料に身近に触れることは大切なことだが、郷土館に来たいと思っても地域的に来ることが難しい県民も多いので、移動博物館をもっと実施してもらいたい。
- デジタルミュージアムのコンテンツは、一定のレベルに達しないものであればかえってマイナスとなるので、予算が限られているのであれば他の効果的なものに予算を向けるべきである。
- デジタルミュージアムは、学校教育の立場からは、郷土館から遠い地域の子どもたちにとっては、学習のために博物館資料を活用するために役立つものなので、さらに充実させてほしい。

- 館内での写真撮影を基本的に自由とすることはとてもよいことだ。学習活動で郷土館を利用した後でも、学習のまとめに写真は大いに役立つ。
著作権・肖像権の関係での撮影制限については、その旨を明示すればそのことを子どもたちに学習させるので問題はない。
- 館内での写真撮影では、場合により肖像権の問題が出てくることを啓発していただきたい。SNSに写真をアップすることは非常にハードルが低くなってきていて、良識に任せることはこの多様性のある社会では難しいのではないか。
- これからは、個人蔵の資料が博物館等への寄贈申入を断られることで、文化財が散逸してしまうおそれがある。県立施設である郷土館は基本的に受け入れるという姿勢であってほしい。
- 博物館の在り方は行政の意識に大きく影響される。収蔵庫の関係で、資料の寄贈を拒否されるということがあってはならず、文化を疎かにしてはならない。意識を変えてもらうために、我々も働きかけていかなければならないし、郷土館を運営する方々も成果を訴えるなどしてほしい。そうすれば、もっと夢のある博物館になっていくと思う。
- 将来的には新たな収蔵庫が必要だと思う。